

4 期目就任式挨拶（2025/9/22）

おはようございます。

この度の村長選挙におきまして、村民の皆様からの温かいご支援を賜り、引き続き村政運営を担わせていただくこととなりました。

私自身は、これまでの12年間の延長とは思っていません。新たな4年のスタートであり、この「ふるさと東海村」をしっかりと次の世代へ引き継いでいくための大切な4年間になると思っています。

是非、夢のある東海村の将来像を描いていくため、職員の皆さんには、私と一緒にチャレンジをしていただきたいと願っています。

本日、私が、皆さんにお伝えしたいことは、

「現場で何が起きているのか？」「村民が何を必要としているのか？」

ということを常に意識してもらいたいということでもあります。

公務員としては、ルールに基づき、適切に、そして公明正大に仕事をする必要があることは言うまでもありませんが、仕事の本質は、単なる事務処理ではないと思います。現場に真実があり、課題や原因を明らかにしていく過程で村民の想いも受け止めていかなければなりません。答えは一つとは限りませんので、あらゆる可能性を検討していく必要があります。手間のかかる作業とはなるでしょうが、住民に身近な役場職員だからこそ、求められている役割だと思います。

私は、以前から、「対話」を大事にするようにと話していますが、特に、住民との対話は難しいと思います。丁寧に説明しても聞き入れてもらえない場合も多いことでしょう。それでも、諦めずに対話を続けてください！村民の皆さんが何に困っているのか、一緒に答えを見つけ出すよう努力をしていただきたい。よろしくお願いします。

今、多くの自治体が、人口減少社会の中で、どのようにして持続可能なまちづくりを実現していくのか？という命題に対して、摸索しながら、様々な政策を打っています。一方、本村は、現状では、総人口は維持出来ているものの、10年先を見据えれば、厳しい状況が想定されます。だからこそ、これまではなかった新たな発想で対処していかなければなりません。常識や前例にとらわれることなく、民間のアイデアや力を積極的に導入していくような大胆な政策展開を図ってまいりましょう。

今日は、政策的な話はしません。来週、開会する議会で「所信表明」を行うこととしておりますので、そちらを聞いていただければと思います。

なお、先週の地域戦略実行本部において、令和8年度に向けた「実施計画」や「予算編成」に関する方針が決定されておりますので、まずは、来年度に向けた事業立案や事業見直しに着手していただきたいと思います。

今後とも、職員の皆さんには、私の思いもしっかりと受け止めていただきながら、村民の皆さんに、「住んで良かった」「住み続けたい」と思ってもらえるようなまちづくりの実現に向けて、引き続き、全庁一丸となって取り組んでまいりましょう。

以上、4期目のスタートにあたっての挨拶といたします。